

海夫通信 16号

特定非営利活動法人 霞ヶ浦アカデミー

事務所 〒311-3505 茨城県行方市浜 370 番地 1

(▼ ホームページ)

<http://www.k-academy.sakura.ne.jp>



[海夫] 潮の香りをほのかに残すこ
こ霞ヶ浦にもかつては多くの海の
民がいた。海に寄り添い潮の流れ
とともに暮らしていた人たちに思
いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫
たらんとす。

第29回水郷水都全国会議

霞ヶ浦大会を開催しました

一 開催に至る経緯

1 理事長の決断

水郷水都全国会議は、昭和59年の世
界湖沼会議琵琶湖大会を契機に結成され
第一回大会は昭和60年に宍道湖畔の
島根県松江市で開催されました。河川や
湖沼の保全や持続可能な地域社会の運
営、中央集権的な全国一律の水資源開発
管理の問題点を指摘し、地域からの管理
運営を目指して活動を続けている市民活
動です。昨年、十一月、新潟県津南市で
開催された第28回大会で、当団体に對
して霞ヶ浦で開催して欲しいとの要望が
ありました。霞ヶ浦では、昭和61年に
第二回大会を開催しているの、実現す
れば、26年ぶり二度目の開催です。

16号 内容

- ◎ 第29回水郷水都全国会議
霞ヶ浦大会を開催
- ◎ 生き物アカデミー参加者の意
見 大好きなかすみが浦
早川 哲人 (下妻小5年)
- ◎ ウナギをめぐる冒険Ⅲ
霞ヶ浦開発とウナギ
- ◎ 新入会員紹介

当団体は数人のスタッフが中心と
なつて運営されている団体です。通常
の事業に加えて全国会議を開催する
のは容易ではありません。理事会で
激論の結果、賛同する方々を募集し
実行委員会主催で開催することで理
長が決断、本部(財団法人宍道湖・中
海汽水湖研究所)に受諾する旨、報
告しました。実行委員として参加さ
れた方々は、水郷水都全国会議委員
の奥井登美子、岩崎惇子、原田泰、
森保文のみなさん、応募された土浦
市の柏村さん、御供さんの6名、霞
ヶ浦アカデミー執行部5名で、10月
12〜14日執行を指すこととなりま
した。

2 東日本大震災を踏まえる
霞ヶ浦での開催が要請された理由
に東日本大震災がありました。本会
議では東日本大震災を踏まえて水郷
水都の問題を見直したいという大き
なテーマがあり、被災地での開催が
検討されていきました。被災地は、
岩手、宮城、福島、茨城、千葉で
すが、宮城、福島両県は、被災の状
況が深刻で開催は困難な状況にあ
りましたので、震災直後の開催地と
して霞ヶ浦が候補に挙がったという
事情もありました。また、霞ヶ浦問
題に携わるものとしては、東日本大
震災を踏まえて霞ヶ浦問題を

見直す必要に迫られていたという事
情もありました。霞ヶ浦問題を議論
する際に、今回のような大規模の津
波や放射能汚染が取り上げられたこ
とは、これまで皆無だったので。
このことが、開催を引き受けた最
大の理由です。

3 テーマを決める

今回議論すべきテーマとして「東
日本大震災3・11を踏まえた新し
い時代の水問題」、「持続可能な社会
運営」、「霞ヶ浦四十八津の歴史を踏
まえた地域運営」等が候補に上げら
れました。また、昭和61年の第2
回大会当時からみると、霞ヶ浦周
辺の市民運動も大きく変わり低迷し
ているように思われるのですが、全
国各地も同様の問題を抱えているの
で、広く「水環境問題を中心
にすえた地域運営」がテーマでよい
のではないかと等々錯綜しました。し
かし、5月25日の第2回実行委員
会で以下のとおり決定しました。
前第2回大会のテーマは「水文化
の再生をめざして」アオコカップか
らの提言「だったので、今大会のメ
インテーマはこれを踏襲することと
ざして」サブテーマ「カップは3・

11を乗り越えられるか」と決定しました。前回は水質汚染、特にアオコが最大のテーマでした。しかし、東日本大震災で地域社会のあり方や生き方が根本的に変わってしまった今回は、未解決の水質問題に加えてこれらの新しい深刻な問題をどう受け止めるのかをサブテーマに決めました。

4 開催場所の選定

当初は、漁業の中心地であるかすみがうら、行方、稲敷あるいは潮来市での開催を優先させて検討したのですが、会場や宿泊施設、参加者のアクセスを考慮した結果、最終的に開催地として土浦市、会場として茨城県霞ヶ浦環境科学センター（大ホール、研究室、会議室の3つの分科会会場）に落ち着きました。

5 講演と分科会の設定

記念公演として、東海村村上達也前村長による「東日本大震災と東海村第二原発」、基調講演として大熊孝新潟大学名誉教授の「川とは？ 川の環境と治水のあり方を考える」は当然のことに決まりました。これに加えて、霞ヶ浦側からの講演も必要ではないかということ、霞ヶ浦からの報告の演題で霞ヶ浦の運動、江戸時代以降の開発と漁業者の入会と抵抗運動の歴史を事務局長が報告することを決めました。

分科会は、議論の場なので、その設定が会議全体の流れを決定します。当初は「3. 11からの水郷水都の再興（放射能汚染問題、地震、津波、液状化など）」、「市民参加の河川整備計画」、「公共事業と生物多様性」「各地からの報告」、「自然エネルギー」、「環境教育」、「水質問題」の7分科会が候補に挙げられ、それぞれが、喫緊の課題であり、いずれも落とせないテーマと

となりました。しかし、諸般の事情から最終的に「3・11と水資源開発」、「放射能汚染」、「全国各地からの報告」の3分科会とし、これを補うために「ポスターセッション」を設けることとしました。

6 現地視察と交流会

初日は、午後から湖上からの見学会を企画しました。土浦港を出港、南岸沿いに美浦村大山地先まで東進し、湖心を経て帆引き船を見た後、水の科学館前の埠頭から上陸、霞ヶ浦ふれあいランドのタワーから霞ヶ浦を一望。夕陽を見ながら帰路に就くという計画です。二日目の分科会の後の交流会は、ホテル・マロウド筑波の13階レストランで土浦の夜景を楽しみながら歓談するという計画をたてました10月12日のツアー参加者は57名に達しました。

7 資金調達

もう一つの大きな問題が資金です。大会開催に必要な予算額は概ね100万円です。例年、参加費だけでは不足するので、別途資金の調達が必要です。いくつかの助成事業に応募しましたが、すべて失敗に終わり、財政的裏付けのないまま船出をすることとなりましたが、協賛してくださった方々のご支援に助けられました。

Ⅱ 会議を開催する

参加者募集

参加者募ポスターやパンフレットの印刷が完了したのは8月20日でした。直後から後援団体や協賛団体への支援のお願い、続いて広報活動を開始しました。参加者募集は、9月10日から霞ヶ浦アカデミー事務所を窓口として開始し開会前日のまでに1

77名の応募がありました。

記念講演

村上前村長の記念講演で、3・11の大地震による東海第2原発破壊が間一髪で回避されたことが紹介された。5・72mの津波は、海水ポンプ室に設置された6・1mの防潮壁天場にわずかに0・7mを余して止まったこと、この防潮壁に設けられたケール孔が塞がれたのが3月4日。かろうじて緊急用ダイゼル発電機が水没を免れたこと、まさに、福島第一原発同様の放射能汚染が目の前まで迫っていたことが紹介された。この間の国や東電の対応、さらには1999年のJCO臨界事故の経験を踏まえ脱原発に梶を切った理由を明かした。福島原発事故を境に世界が変わり、この新しい時代が脱原発・脱中央集権、自然生態系保護思想の徹底を必要としていること、地方の価値を再認識した独自の地域運営を切り拓くことの重要性について熱く語られた。

基調講演

大熊名誉教授は、「川とはか？」とい根源的なテーマを設定、従来の物理的側面からの定義を見直し、人あるいは生き物との共生関係に焦点を当て、生物多様性や持続可能性に力点をおいた河川論を展開された。ダムについては、「川の物質循環を遮断するものであり、川にとって基本的に“敵対物”ではない」とした。具体的に利根川の治水対策を取り上げ、基本高水流量22000、計画高水量16500の差5500が洪水調節流量である。この流量をカットするのに必要な洪水調節容量は、約5億4000万である。現在、工事が進められている八ッ場の貯

水容量は6500万、利根川の既設ダムの貯水容量を加えても1億1484万で、なお、約3億6000万分のダムが必要となる。このことを考えると、今後ダムに依存する治水対策では無理がある。現在の問題点は「いままで経験したことのない豪雨が広域にふるようになってきている」、「堤防の破堤力所が予測できない」、「人家密集地域で高い堤防が破堤すると、激流となって壊滅的被害をもたらす」こと等である。こうした問題点を乗り越えるためには、「堤防の高さを現在以上に高くすることなく、越流してもすぐに破堤しないように数時間持ちこたえられるように堤防を強化すること」を指針とするが重要と述べ、すぐに破堤しない工法を具体的に示し新しい時代に合った考え方を披露した。

浜田篤信（霞ヶ浦アカデミー）

第二分科会（放射能汚染問題）

福島の漁業の状況について

藤田恒雄（福島県水産試験場）

霞ヶ浦の漁業の状況

渡辺幸司（霞ヶ浦漁業協同組合）

農業の状況について

合田寅彦（スワラジ・セミナー）

観光業の状況について

秋元昭臣（ラックスマリーナ）

市民による自主的な測定活動の状況について

長坂慎一郎（土浦まちづくり市民の会）

流入河川の状況について

安保満貴（アサザ基金）

第三分科会（全国各地からの報告）

藤沼湖・ダムの決壊について

田渕直樹

土浦の自然を守る会の生物多様性保全の取り組み

萩原富司他（土浦の自然を守る会）

茨城県自閉症協会との協力登山

諏訪 肇（日本山岳会茨城支部）

幼い子を持つ母親の不安

奥井登美子

一般社団法人徳島地域エネルギー

豊岡和美（徳島地域エネルギー）

大会宣言と特別決議

最終日の全体会議では、分科会の報告を踏まえ

激しい議論が続きましたが、結論を得ることは、できず今後委ねられることとなりましたが、以下の

大会宣言と特別決議に反映されました。特別決議については「霞ヶ浦導水事業の中止を求める決議」、「八ッ場ダムの中止を求める決議」、「諫早湾開門に係る決議」を採択し、それぞれの関係大臣宛に要望書を提出しました。以下に大会宣言と霞ヶ浦導水事業の中止を求める決議書の全文を紹介いたします。

大会宣言

第29回水郷水都全国会議霞ヶ浦大会は、2013年10月12日から14日、茨城県土浦市の霞ヶ浦湖畔（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）において開催された。「水文化の再生をめざして」カップは3・11を乗り越えられるか」をテーマに開催された大会には、全国から延べ391名が参加し、熱心な報告と討論が行われた。霞ヶ浦では1986年の第二回大会に続き2回目の大会となった。本大会では、

その後の社会、環境情勢の変化、とくに未だに解決されない2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故災害の実態を踏まえて議論した。地震による地盤沈下、液状化現象および津波が水利施設を破壊し長期にわたって機能不全をもたらすことが報告された。さらに、従来の水資源開発事業が、我が国のウナギやシジミ類の資源の激減が示すように日本列島の自然を破壊しつくそうとしている状況も全国から報告された。このような災害に脆弱無益な公共事業を中止させ、3・11後の新しい時代にふさわしい自然との共生に基づく治水・利水対策や生物多様性を誇れる地域づくりが実現されなければならないことは明らかであるが、その実現は政治力によって阻まれている。この障害を乗り越

分科会

10月13日の各分科会は40名を越える参加者で討論が続き最終日の宣言と特別決議へと結実しました。紙面の都合で各分科会の話題提供演題の紹介にとどめます。

第一分科会―3・11と水問題

全国の水源開発などに立ち向かう市民運動の課題

遠藤保男（水源問題全国連絡会）

霞ヶ浦導水事業訴訟が勝利するための課題

吉井孝二（茨城共同運動）

宍道湖の現状 今の課題

竹下幹夫（宍道湖・中海汽水湖研究所）

諫早干拓堤防排水門常時開放と有明海再生への展望

東 幹夫（長崎大学名誉教授）

生物多様性を保障する水資源開発管理

え新しい時代を切り拓くのは、私たち自身である。

福島第一原子力発電所事故は、日本列島に放射能汚染によって計り知れない災害をもたらした。本大会は、まず原子力発電をやめること、そして地域協働型の再生可能エネルギーの開発と普及を地域自によってすすめることを提言する。そのためには、放射能汚染にかかわる情報を共有し、生産者と消費者の交流を強めなければならぬ。原子力発電をやめ、地域協働型の再生可能エネルギーの開発と普及を地域自立によってすすめる。私たちは、水郷水都全国会議の原点である「市民・行政・科学者の連携」による、環境と共生する水郷水都のモデルづくりとその実践をすすめる、全国各地において多くの住民との連携を広め3・11後の情勢を乗り越えることをここに誓う。

霞ヶ浦導水事業の中止を求める決議

生態系を破壊し、無駄な血税を流し込む霞ヶ浦導水事業の推進は、「政治的犯罪」である。東日本大震災及び福島原発大事故により従来の開発指向が問われ、人の生き様と科学のあり方が質されている。

利根川流域の水資源開発の一環である「霞ヶ浦開発事業・霞ヶ浦導水事業」は、高度経済成長期の「申し子」である。霞ヶ浦導水事業は、霞ヶ浦と那珂川を約43キロメートルのトンネルで結び(流況調整河川)、都市用水の新たな確保などをあげている。私たちは、導水事業の目的がすべて破たんしていることを実態的に、科学的に示した。また合理的な提案も行い、さらに導水事業は那珂川の固有の生態系を大きく変えてしまうことを警告してきた。しかし、「開発ありき」の国土交通省は聞く耳をもたなかった。それに留まらず、

事業延長を4回も行った。霞ヶ浦導水事業は198

5年7月1日に策定し、事業費1600億円、事業完成1993年度であったが、2015年まで延長、総事業費も1900億円と増額している。茨城県知事が事業延長に「同意」をしたことで茨城県民は約850億円を負担することになった。現在、導水トンネルの完成は約14キロメートルで、全体の32%の進捗であるが、総事業費1900億円の8割に相当する1490億円を出費した。2015年度に事業完成の見通しはなく、国交省は5回目の事業延長を画策している。霞ヶ浦からの導水によって、那珂川の魚介類の生態系が破壊されることに危機感をもった茨城・栃木県的那珂川水系7漁業協同組合は、2009年3月3日、水戸地裁に「取水口建設の工事差し止め処分」(あゆ裁判)を求めた。現在、那珂川の上流から下流の漁業協同組合が一体となり、また、新たにシジミを漁獲対象としている大澗沼漁業協同組合も加わり、霞ヶ浦導水事業の中止に向けて法廷での闘争が続けられている。汽水湖であった霞ヶ浦は、江戸期以降の「利根川東遷事業」、高度経済成長を支えた「霞ヶ浦開発事業」などの歴史に、東日本大震災による地盤沈下・福島原発大事故による放射性物質の蓄積などの被害が新たに加わった。このような霞ヶ浦の新たな歴史に立っている私たちの課題は明確で、霞ヶ浦と共生する抜本的改革案を創り実践することである。その先陣を切るのは、霞ヶ浦導水事業を中止させることである。

事の事業「同意」に反対する。

(2) 那珂川水系全8漁業協同組合の霞ヶ浦導水事業を中止させる「あゆ・しじみ裁判」に、全面的な支援を行う。

(3) 導水トンネル予定地に権利設定される「区分地上権」を、市民・漁業者が土地所有者から譲り受け・登記する活動を行う。

(4) 那珂川の魚介類の生息環境及び、澗沼のシジミなどの生息環境を守る。

(5) 既存の導水トンネルは、「東海原発」事故が、仮に起きた時の避難場所として活用する。

謝辞

ご参加いただきました皆さま、会場設営等にご協力いただいた土浦市民のみな様、県霞ヶ浦環境科学センター職員のみなさま、財政的支援をいただいた以下の方々に深謝いたします(久月総本舗様・池田雄一税理士事務所様・かね喜様・不二造園土木株式会社様・三浦柳様・株式会社ジュン設計事務所様・株式会社東洋通商様・霞月楼様、株式会社阿部電気設備様・司法・行政書士河合隆事務所様・株式会社ヨシダアート様・株式会社奥井薬局様・株式会社斉田材木店様・有限会社小野商店様・A1GROUP様・西谷隆義様)。また、懇親会および全国実行委員会の運営についてにはホテル・マロウド筑波黒羽充様に特別のご配慮を戴いた。湖上観察ではラックスマリーナ秋元昭臣様にご尽力いただいた。さらに霞ヶ浦沿岸市町村関係各課職員の方々には本会の開催の後援のご支援を戴いた。要望等については藤田幸久衆議員議員にご尽力いただいた。以上、深謝いたします。

生き物アカデミー参加者の報告

大好きなかすみが浦

早川 哲人（下妻小学校5年）

「かすみが浦で漁師になること」それが、将来のぼくの夢です。かすみが浦には、実にたくさんのお魚がいます。アメリカナマズ、銀ブナ、金ブナ、コイ、ニゴイ、野ゴイ、アユ、ハクレン、ウキゴリ、ヌマチチブ、タモロコ、タイリクバラタナゴ、スジエビ、テナガエビ、ブラックバス、ブルーギル、ソウギョ、ライギョ、ウナギ、モクズガニ、ワカサギなどが住んでいます。なぜ、そんなにたくさんのお魚が住んでいることを知ったかというと、月に一度「霞ヶ浦アカデミー」という団体の調査をしているからです。そこでは定置あみをしかけ魚の数を調べています。

夏は、泳いで調べたりもします。少しなまぐさくにごっています。とても楽しいです。こうした活動をつづけて三年になります。最近では、アユが増えてきたことにはびっくりしました。でも、アメリカナマズは、いつもおなかパンパンです。どんな物を食べているのか知りたくて、解ぼうしてみました。中には、アユが7匹も入っていたこともありました。このままでは在来種が食べつくされでしやうと心配になってしまいました。

アユやワカサギなどの在来種を増やすために、湖岸に人工的な砂浜を作ったり、水草を植えている所もあります。でも、ぼくは、在来種を守るためだと思って、人の手を加えずるのは自然でないと思います。アメリカナマズのいることも人間の犯したあ

やまちだと思えます。だから、かすみが浦の自然をとりもどすのは、人間の責任です。時間はかかるけど、外来種をくじよしていくことがぼくにできることです。漁師になってやるべきことの第一は、外来魚のくじよです。それが終わってから、かすみも浦にもぐって、アユなどもつかみ取りしたいのです。それが、大好きなかすみも浦へのぼくの夢です。（以上、2014年第11回ネイチャーキッズ特派員東北北海道探検ネイチャーキッズ賞作文・探検隊員てづくり壁新聞、株式会社カスミより引用）。

2月の生き物アカデミー「冬の野鳥を観察する」

早川 哲人（下妻小6年）

1月19日、ぼくは霞ヶ浦生き物アカデミーで高浜公民館から、霞ヶ浦最北部の恋瀬川の両岸で野鳥観察をしました。野鳥観察では、コガモ、カルガモ、カイツブリ、コブハクチョウ、オオバン、ムクドリ、トビ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ツミ？、カンムリカイツブリ、タゲリ、ヒドリガモ、ミサゴ、カワウ、メジロ、スズメなどが見られました。なかでも個体数で他を圧倒していたのは、カモ類でした。そんなカモでも種類やオスとメスによって模様が違うカモがいました。カモのなかでも、カルガモというカモは留鳥だということがわかりました。タゲリというとりは、きれいで本州以南にくる冬鳥だということもわかりました。カイツブリという鳥は、潜ってエサの魚を獲る鳥なので浮いたり沈んだり、消えたり現れたり、とても見えていて神秘的で

した。カワウという鳥は、何気なく見ていましたが調べてみると獲物を獲ってから吐き出す鳥だということがわかりました。トビを真下から見上げたら両翼に、白いすじが入っていました。コブハクチョウは寒い空気に白というものでとてもきれいで、白という色は、寒さを物語る色だなと感じました。普段何気なく見ている鳥だけど、注意して望遠鏡で見ると、1体1体の模様や、種類によって異なる大きさなど様々で新しい発見が沢山ありました。また今度も身近な場所で野鳥観察をしてみたいです。

ウナギをめぐる冒険 その目

浜田 篤信

全国のウナギの漁獲量と利根川水系のウナギの漁獲量との間には極めて高い相関関係が認められ、全国および利根川水系のウナギ資源の変動が、同じ原因によって支配されていること、そしてその原因が利根川水系の親ウナギの資源減少にあるとの推測を前15号でしました。現在のところ、ウナギ資源減少原因は、シラスウナギの乱獲、海洋構造の変化（北赤道海流等の流路変動によるシラスウナギの黒潮流路への乗換不全）、河川環境の悪化（ダムや水門の建設、生息場の消失）が挙げられています。したがって、ここで取り上げた「利根川水系の親ウナギ資源の減少」説は、新しい提案です。そんなバカな、と思われるかもしれませんが、今回は、この点について詳しく検討しましょう。

霞ヶ浦開発とウナギ漁獲量変動

もし、利根川水系の河川湖沼開発事業が、全国のウナギ資源に影響を与えているのならば、それらの開発事業が行われた時点で全国のウナギ資源（利根川水系を除く）に変化が生じているはずですが、図1に利根川水系を除く全国のウナギの漁獲量変動を明示しました。漁獲量は、昭和36年（1961）に2663トンのピークに達しますが、以後は減衰の一途をたどります。この減衰の過程を詳細にみると不連続な激減ポイントが3カ所あることがわかります。

昭和45年（1970）、昭和58年（1983）および平成16年（2004）です。この3ポイントをベースに全体の流れを分析すると全体は次の5期に年代区分することができます。

- 第一期 第一安定期（1969以前）
- 第二期 第一減衰期（1970～1973）
- 第三期 第二安定期（1974～1983）
- 第四期 第二減衰期（1983～2004）
 - 激減期（1983～1985）
 - 漸減期（1986～2004）
- 第五期 第三減衰期（2005以降）

この年代区分毎に漁獲量減少の原因について見ていきましょう。まず、減衰期開始の各点、図中カギ矢印のポイントですが、これらのポイントの7年、または8年前には、いずれも霞ヶ浦の水資源開発に関する大きな事業が位置していることが分かります。大矢印で示したように、常陸川水門完成（1963）、同水門完全操作開始（1975）、水資源管理開始（1

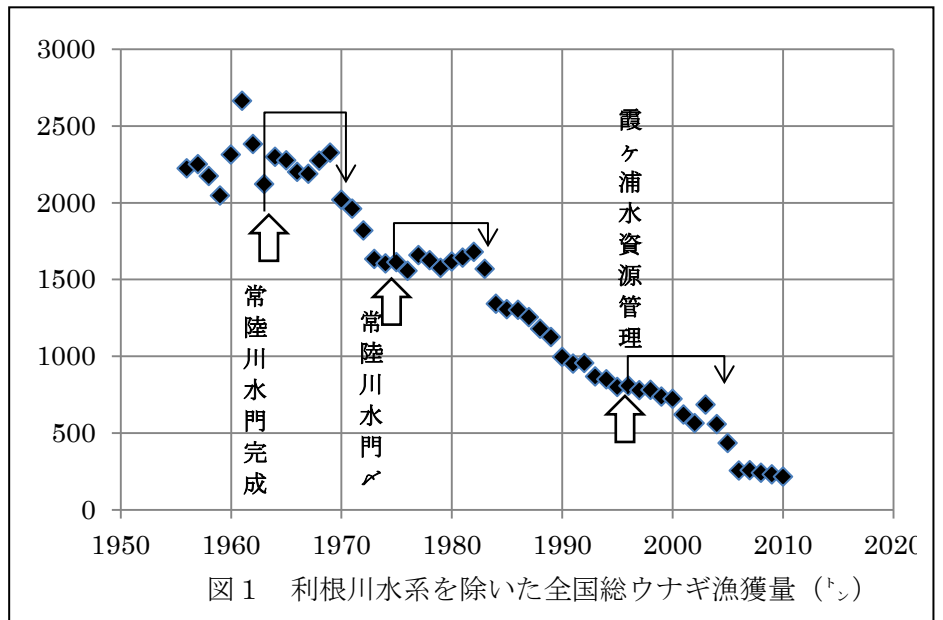


図1 利根川水系を除いた全国総ウナギ漁獲量 (ト)

996)です。なぜ、「7～8年前」という点ですが、ウナギが漁獲対象となるサイズに達するのに要する時間だからでしょう。したがって図中カギ矢印箇所の漁獲量の不連続的減少の原因が霞ヶ浦の水資源開発に係った前述の3事業による産卵回遊阻害と推論できます。再度、強調しておきますが、ここで問題としている漁獲量は、霞ヶ浦利根川を除く全国の総漁獲量です。ここから霞ヶ浦が、「我が国全体の親ウナギの主たる供給基地であった」との仮説が得られ

ます。前号で利根川水系のウナギ漁獲量と翌年の全国のシラスウナギ総漁獲量との間に極めて高い相関関係が認められることを紹介しましたが、このこともこの仮説を支持しています。常陸川水門の完成と完全操作開始が霞ヶ浦の親ウナギの産卵回遊を阻害することは納得できるのですが、1996年の水資源管理開始が、どのようなメカニズムで産卵回遊に影響を与えるのかは、現時点では不明です。

新入会員紹介

柏村忠志さん（土浦市）、木村苑子さん（つくば市）、新関紀文さん（つくば市）が入会されました。

書籍の寄贈を戴きました

木村苑子さんから故木村龍男さんの「遺稿集」と環境関連の図書を寄贈していただきました。文献リストを作成し閲覧できる体制を整えます。遺稿集については霞ヶ浦や環境問題関係の重要な論文が収録されています。余部がありますので入手ご希望の方は事務局までご連絡ください。

寄付を戴きました

菅谷進様（取手市小文間）5,000円の寄付を戴きました。心より感謝申し上げます。

NPO法人 霞ヶ浦アカデミー入会案内

連絡先・電話・FAX 0299・46・0988、
メール kaseco@v5.dion.ne.jp

「年会費」普通会員入会金 1000 円 会費 3000 円